

第 7 回徳島市男女共同参画推進ネットワーク 議事録(概要)

日 時 令和 7 年 7 月 31 日(木) 15:00～16:30
場 所 ホテル千秋閣 7 階 鳳の間
出 席 者 19 名(委員名16 名、事務局3名)

【 次 第 】

- 1 開会
- 2 新委員紹介
- 3 座長及び副座長の選出
- 4 議題
 - (1) 令和6年度事業の取組状況について
 - (2) 令和7年度事業について
 - (3) 意見交換
- 5 その他
- 6 閉会

【 意見交換・質疑応答の概要 】

- A 委 員 : ロールモデルカフェについて、今年度も大学生をターゲットとして進めているが、進路選択にあたっては、大学入学以降ではなく、高校生の時からすると思う。大学生だけではなく、次年度以降は、高校生、大学生と範囲を広げてもいいのではないかな。
- 事 務 局 : ロールモデルカフェに参加された方からは、すごく考えるきっかけになったというようなご意見をいただいております、高校生にするというのは、良いことだと思う。こういう形がいいのではないかなというご意見があればお聞かせいただき、今後検討していきたい。
- B 委 員 : 私立の高校生対象だと取り組みやすいのではないかなと思う。
- C 委 員 : 高校生を入れて、どこか場所を借りて、いろんな人が入ればすごく面白いことができるのではないかなと思う。徳島でどういう働き方ができるのかを高校生に伝える場にもなるのではないかな。大学生だと進路が狭まりすぎている感じがするので、高校生も交えてやれば良いと思う。
- D 委 員 : 徳島市内の 3 大学が一緒にしたらどうか。そうするといろんな高校生が行きやすいのではないかな。
- E 委 員 : 若者や女性にも選ばれる地方を実現していこうという方針が掲げられているので、若者や女性の働きがい、働きやすさを向上させていくような内容で事業を進めていただきたい。
- F 委 員 : 女性が活躍するためには、男性の家事、育児参画がすごく大事になってくと思う。女性だけでなく、男性も一緒に事業をしていくのがいいと思う。
男性の家事が楽しくなるような、取り組みになっていただきたい。

G 委 員 : 料理をしないお父さんでも、こういう風にできるんだっていうのを、見守ってくれるだけでも、すごく勉強になる。

募集組数が少ないが、募集方法はどのようにしているのか。

事 務 局 : ぱぱっとパパランチは、会場の人数制限があり、募集組数が少なくなってしまったが、本市のホームページや、広報とくしまで周知をさせていただいた。今後も、会場も考えながら、募集組数設定などを考えていきたい。

D 委 員 : 親子(母娘)アンコンシャスバイアスワークショップは、お母さんとそのお母さんとのアンコンシャスバイアスなのか、お母さんと自分の子どもなのか、実施内容がわかりにくい。お母さんとの子どもであれば男の子どももいるので、娘というのは違ってくる。

また、DV 防止啓発について、昨年度はセミナーやパネル展に「女性に対する暴力」という言葉が入っていたが、今年度は除かれている。女性から男性にするDVもあるので、幅広くなって良かったのではないかなと思う。昨年は、児童虐待防止のオレンジリボンと一緒にされているが、今回はないのか。一緒にすれば、啓発もパワーアップすると思う。

事 務 局 : 親子(母娘)アンコンシャスワークショップは、お母さんから子どもに対して、アンコンシャスバイアスを再生産しないように、ワークショップを行って話し合いができたかと考えていたが、実施には、対象や内容を思案し、対象となる方に来ていただけるよう広報などにより周知していきたい。

オレンジリボンとのダブルリボン運動については、今後担当課と協力して何ができるか調整していきたい。

C 委 員 : アンコンシャスバイアス授業について、昨年の意見を取り入れてくれ、今年は3校になって本当に良かったと思う。6年度に取り組んだ中学生に、アンコンシャスバイアスという言葉でなくても、考え方の違いなどクラスでおしゃべりできるなど何度も確認し合って話題に出すことができるというのは、本当にすばらしい学びだと思う。重ねるごとに良い影響が目に見えてくると思うので、ぜひ続けていただきたい。

また、男女共同参画に関する学習会については、女性の参加者が多く、男性が一桁でありすごく寂しい。一般受けはしないが、そういった内容を一生懸命考えたいという団体の方が考えられた講座なので、広報して、参加者が半々になるような募集の仕方があれば良いと思う。

H 委 員 : クラス内でアンコンという単語が聞かれるようになったり、自然に授業後に生徒の間に会話がすすむ、これを広げていくことが大事だと思う。

C 委 員 : 中学校でアンコンシャスバイアス授業をすると、家へ持って帰って話をし、家族が聞く。そういう地道な草の根のような効果があると思うので、続けていただきたい。

I 委 員 : 男女共同参画の視点からの防災ワークショップについて、土曜日開催なので、年代問わず出席していただけたら本当に役立つと思うが、告知方法や何人位想定しているのかを教えていただきたい。

- 事務局：幅広い世代の方に来ていただけたらと考えており、人数については 50 人程度、広報については、徳島市ホームページ、SNS や昨年 11 月に作成したポータルサイトを使うとともに、ネットワーク会議委員のみなさまにもご協力いただきたい。
- J 委員：ロールモデルカフェについて、ロールモデル 16 名程度というのは、男女比がどのくらいで、どういった人が対象となっているのか。
- 事務局：当初は男女比を同数にしたいと考えていたが、今年度は、男性が 6 名、女性が 10 名を予定している。対象については、企業のみなさまにご協力いただくとともに、公的機関などでは、男女比率で偏りある職種の方をお願いしている。
- K 委員：高校生や大学生と関わっているが、働くことに興味、関心はあるが、都市部での働き方により興味が強いと感じる。公務員や大きい企業には行けたら行きたいという思いも感じるので、ロールモデルの多様な働き方を見せるということは、一定程度の価値はあると思う。一度徳島から出て、いろんな実感を持った時、徳島で成功体験があると、そこで価値が出てくると思うが、今現在徳島に在住している高校生や大学生が授業の枠組みでないなら来るのだろうかとも思う。授業の枠組みではなく集めるのはボランティアではないかと思うし、運用ノウハウはあるので協力したい。
- L 委員：若い女性が県外に転出していることが徳島の課題。香川県は自然減があり人口は減少しているが、社会増である。徳島では社会減かつ自然減。
男女共同参画推進ネットワーク会議の短距離的な目標は、女性が活躍できる社会を実現していくことであるが、中長期的な目標はその結果として、女性がこの地域に根付き、活力ある街を創造していくということだと思うので、ロールモデルカフェをもっとした方がいいと思う。全高校で実施する勢いで。徳島で女性が活躍できる、ちゃんと稼げる、子育て政策が充実していることを子ども達に伝えながら、子ども達を経由して、親に伝えていかないといけないと思う。そうしないと、人口減で町から活力が奪われていっているという現状に対して歯止めをかけるには、一番は女性活躍推進であり、ここはすごく大事だと思う。
- H 委員：徳島では大学進学と就職時の 2 回社会減が大きくなる。どうやって止めるか、止まらなくてもいかに浅くするか、一回出ても戻ってきてもらうかと思う。いずれにしても、やはり女性が生きやすい徳島が必要になるので、中長期的に考えて、何らかの提案を発信していく必要がある。
- M 委員：セミナーを受講した人は、口々に良かったと言うが、終了した後も受講した人同士で深める必要性があると感じた。
- N 委員：女性の目を見た考えもだいぶ浸透してきていると思うが、今現在は何を決めるにしても男社会で、それが先に立っている。女性が初めから参加させていただいて、地域が少しでもより良く、楽しい、住んでいてよかったという街づくりにしていく仕事をしたい。

C 委 員 : ロールモデルカフェは、高校生、大学生はもう進路が決まっているので、中学生にした方がいいと思う。一度は徳島を出て、どうして戻ってきたい思うかという
と、子どもの頃に触れた何気ない地域のつながりや楽しかったことが地域の思い出
になって、徳島で子育てしたいという感じになるのではないかと思う。また、中
学校であれば、徳島市としてできるのではないか。

D 委 員 : アンコンシャスバイアス授業は、手を挙げた学校、学年だけという一部しか提
供できずもったいない。先生対象に授業をすると、全中学校に提供できるのでは
ないかと思う。また、先生自体がアンコンシャスバイアスを実感しながら生徒へ授
業するので、良いと思う。

ロールモデルカフェについては、徳島に帰ってきた方や I ターンなど徳島に來
た方にロールモデルをしていただき、徳島の良さを中学生に伝えていただくと、
一旦徳島を出ても帰りたいと思ってもらえると思う。

H 委 員 : 学生は毎日決まった顔、教員の顔しか見ない。大人といえば、教員か親か、ア
ルバイト先でしか見ないが、そうじゃない人に授業に入っていただくことはすごく
刺激的なことである。

O 委 員 : コミュニティセンターでも、アンコンシャスバイアス授業のようなことができた
らよいと思う。